



## Firepower 9300 の Firepower Threat Defense クラスタ

クラスタリングを利用すると、複数の Firepower Threat Defense 装置をグループ化して1つの論理デバイスにすることができます。クラスタリングは、Firepower 9300 上の Firepower Threat Defense デバイスでのみサポートされます。クラスタは、単一デバイスのすべての利便性（管理、ネットワークへの統合）を備える一方で、複数デバイスによって高いスループットおよび冗長性を達成します。



(注) Firepower Threat Defense デバイスは、複数のシャーシにわたる（シャーシ間）クラスタをサポートしていません。シャーシ内クラスタリングのみがサポートされています。



(注) クラスタリングを使用する場合、一部の機能はサポートされません。クラスタリングでサポートされない機能（10 ページ）を参照してください。

- [Firepower 9300 シャーシでのクラスタリングについて（1 ページ）](#)
- [Firepower 9300 シャーシでのクラスタ化前提条件（13 ページ）](#)
- [Firepower 9300 シャーシ上のクラスタリングのガイドライン（13 ページ）](#)
- [Firepower 9300 シャーシでのクラスタリングのデフォルト（14 ページ）](#)
- [Firepower 4100/9300 シャーシのクラスタリング設定（14 ページ）](#)
- [クラスタリングの履歴（19 ページ）](#)

## Firepower 9300 シャーシでのクラスタリングについて

クラスタは、1つの論理ユニットとして機能する複数のデバイスから構成されます。クラスタを Firepower 9300 シャーシに展開すると、以下の処理が実行されます。

- ユニット間通信用のクラスタ制御リンク（デフォルトではポート チャネル 48）を作成します。シャーシ内クラスタリングでは、このリンクは、クラスタ通信に Firepower 9300 バックプレーンを使用します。
- アプリケーション内のクラスタブートストラップコンフィギュレーションを作成します。  
クラスタを展開すると、クラスタ名、クラスタ制御リンク インターフェイス、およびその他のクラスタ設定を含む各ユニットに対して、最小限のブートストラップ コンフィギュレーションが Firepower 9300 シャーシ スーパーバイザからプッシュされます。
- スパンドインターフェイスとして、クラスタにデータインターフェイスを割り当てます。  
シャーシ内クラスタリングでは、スパンドインターフェイスは、EtherChannel に制限されません。Firepower 9300 スーパーバイザは共有インターフェイスの複数のモジュールにトラフィックをロードバランシングするために内部で EtherChannel テクノロジーを使用するため、スパンドモードではあらゆるタイプのデータ インターフェイスが機能します。



(注) 管理インターフェイス以外の個々のインターフェイスはサポートされていません。

- 管理インターフェイスをクラスタ内のすべてのユニットに指定します。

ここでは、クラスタリングの概念と実装について詳しく説明します。

## パフォーマンス スケーリング係数

複数のユニットをクラスタに結合した場合、期待できる合計クラスタパフォーマンスの概算値は次のようになります。

- TCP または CPS の合計スループットの 80 %
- 合計 UDP スループットの 90 %
- トラフィックの組み合わせに応じて、イーサネット MIX (EMIX) の合計スループットの 60 %
- たとえば、TCP スループットについては、3つのモジュールを備えた Firepower 9300 が処理できる実際のファイアウォールトラフィックは、単独動作時は約 135 Gbps となります。2 シャーシの場合、合計スループットの最大値は約 270 Gbps (2 シャーシ × 135 Gbps) の 80 %、つまり 216 Gbps となります。

## ブートストラップコンフィギュレーション

クラスタを展開すると、クラスタ名、クラスタ制御リンク インターフェイス、およびその他のクラスタ設定を含む最小限のブートストラップコンフィギュレーションが Firepower 9300 シャーシ スーパーバイザから各ユニットに対してプッシュされます。

## クラスタ メンバー

クラスタ メンバーは連携して動作し、セキュリティ ポリシーおよびトラフィック フローの共有を達成します。ここでは、各メンバーのロールの特長について説明します。

### マスターおよびスレーブ ユニットのロール

クラスタ内のメンバの 1 つがマスター ユニットです。マスター ユニットは自動的に決定されます。他のすべてのメンバはスレーブ ユニットです。

すべてのコンフィギュレーション作業はマスターユニット上でのみ実行する必要があります。コンフィギュレーションはその後、スレーブ ユニットに複製されます。

機能によっては、クラスタ内でスケーリングしないものがあり、そのような機能についてはマスターユニットがすべてのトラフィックを処理します。[クラスタリングの中央集中型機能 \(10 ページ\)](#) を参照してください。

### マスター ユニット選定

クラスタのメンバは、クラスタ制御リンクを介して通信してマスターユニットを選定します。方法は次のとおりです。

1. クラスタを展開すると、各ユニットは選定要求を 3 秒ごとにブロードキャストします。
2. 優先順位が高い他のユニットがこの選定要求に応答します。優先順位はクラスタの展開時に設定され、設定の変更はできません。
3. 45 秒経過しても、プライオリティの高い他のユニットからの応答を受信していない場合は、そのユニットがマスターになります。
4. 後からクラスタに参加したユニットのプライオリティの方が高い場合でも、そのユニットが自動的にマスター ユニットになることはありません。既存のマスター ユニットは常にマスターのままです。ただし、マスターユニットが応答を停止すると、その時点で新しいマスター ユニットが選定されます。



(注) 特定のユニットを手動で強制的にマスターにすることができます。中央集中型機能については、マスターユニット変更を強制するとすべての接続がドロップされるので、新しいマスターユニット上で接続を再確立する必要があります。

## クラスタ インターフェイス

シャーシ内クラスタリングでは、物理インターフェイスと EtherChannel (ポートチャネルとも呼ばれる) の両方を割り当てることができます。クラスタに割り当てられたインターフェイスはクラスタ内のすべてのメンバーのトラフィックのロード バランシングを行うスパンドインターフェイスです。

管理インターフェイス以外の個々のインターフェイスはサポートされていません。

## VSS または vPC への接続

インターフェイスの冗長性を確保するため、EtherChannel を VSS または vPC に接続することを推奨します。

## クラスタ制御リンク

クラスタ制御リンクはユニット間通信用の EtherChannel（ポートチャネル48）です。シャーシ内クラスタリングでは、このリンクは、クラスタ通信に Firepower 9300 バックプレーンを使用します。

クラスタ制御リンク トラフィックには、制御とデータの両方のトラフィックが含まれます。制御トラフィックには次のものが含まれます。

- マスター選定。
- 設定の複製。
- ヘルス モニタリング。

データ トラフィックには次のものが含まれます。

- 状態の複製。
- 接続所有権クエリおよびデータ パケット転送。

## クラスタ制御リンク ネットワーク

Firepower 9300 シャーシは、シャーシ ID とスロット ID（127.2.chassis\_id.slot\_id）に基づいて、各ユニットのクラスタ制御リンク インターフェイスの IP アドレスを自動生成します。この IP アドレスは、FXOS でもアプリケーション内でも手動で設定することはできません。クラスタ制御リンク ネットワークでは、ユニット間にルータを含めることはできません。レイヤ 2 スイッチングだけが許可されています。

## クラスタ内のハイ アベイラビリティ

クラスタリングは、シャーシ、ユニットとインターフェイスの正常性を監視し、ユニット間で接続状態を複製することにより、ハイ アベイラビリティを提供します。

## シャーシアプリケーションのモニタリング

シャーシアプリケーションのヘルス モニタリングは常に有効になっています。Firepower 9300 シャーシ スーパーバイザは、Firepower Threat Defense アプリケーションを定期的に確認します（毎秒）。Firepower Threat Defense デバイスが作動中で、Firepower 9300 シャーシ スーパーバイザと 3 秒間通信できなければ、Firepower Threat Defense デバイスは syslog メッセージを生成して、クラスタを離れます。

Firepower 9300 シャーシ スーパーバイザが 45 秒後にアプリケーションと通信できなければ、Firepower Threat Defense デバイスをリロードします。Firepower Threat Defense デバイスがスーパーバイザと通信できなければ、自身をクラスタから削除します。

## 装置のヘルス モニタリング

マスターユニットは、各スレーブユニットをモニタするために、クラスタ制御リンク経由でキープアライブメッセージを定期的送信します。各スレーブユニットは、同じメカニズムを使用してマスターユニットをモニタします。装置のヘルスチェックが不合格になると、その装置はクラスタから削除されます。

## インターフェイス モニタリング

各ユニットは、使用中のすべてのハードウェア インターフェイスのリンク ステータスをモニタし、ステータス変更をマスターユニットに報告します。ヘルス モニタリングを有効にすると、デフォルトですべての物理インターフェイスがモニタされます (EtherChannel インターフェイスの主要な EtherChannel を含む)。アップ状態の名前付きインターフェイスのみモニタできます。たとえば、名前付き EtherChannel がクラスタから削除されるまでは、EtherChannel のすべてのメンバー ポートは失敗しなければなりません。

あるモニタ対象のインターフェイスが、特定のユニット上では障害が発生したが、別のユニットではアクティブの場合は、そのユニットはクラスタから削除されます。Firepower Threat Defense デバイスがメンバーをクラスタから削除するまでの時間は、そのユニットが確立済みメンバーであるか、またはクラスタに参加しようとしているかによって異なります。Firepower Threat Defense デバイスは、ユニットがクラスタに参加する最初の 90 秒間はインターフェイスを監視しません。この間にインターフェイスのステータスが変化しても、Firepower Threat Defense デバイスはクラスタから削除されません。設定済みのメンバーの場合は、500 ミリ秒後にユニットが削除されます。

## 障害後のステータス

クラスタ内のユニットで障害が発生したときに、そのユニットでホスティングされている接続は他のユニットにシームレスに移管されます。トラフィックフローの状態情報は、クラスタ制御リンクを介して共有されます。

マスターユニットで障害が発生した場合は、そのクラスタの他のメンバーのうち、プライオリティが最高 (番号が最小) のものがマスターユニットになります。

障害イベントに応じて、Firepower Threat Defense デバイスは自動的にクラスタへの再参加を試みます。



---

(注) Firepower Threat Defense デバイスが非アクティブになり、クラスタへの自動再参加に失敗すると、すべてのデータ インターフェイスがシャットダウンされます。管理/診断インターフェイスのみがトラフィックを送受信できます。

---

## クラスタへの再参加

クラスタメンバがクラスタから削除された後、クラスタに再参加するための方法は、削除された理由によって異なります。

- **クラスタ制御リンクの障害**：クラスタ制御リンクの問題を解決した後、クラスタリングを再び有効にして、手動でクラスタに再参加する必要があります。
- **データ インターフェイスの障害**：Firepower Threat Defense アプリケーションは自動的に最初は5分後、次に10分後、最終的に20分後に再参加を試みます。20分後に参加できない場合、Firepower Threat Defense アプリケーションはクラスタリングを無効にします。データ インターフェイスの問題を解決した後、手動でクラスタリングを有効にする必要があります。
- **ユニットの障害**：ユニットがヘルスチェック失敗のためクラスタから削除された場合、クラスタへの再参加は失敗の原因によって異なります。たとえば、一時的な電源障害の場合は、クラスタ制御リンクが稼働している限り、ユニットは再起動するとクラスタに再参加します。Firepower Threat Defense アプリケーションは5秒ごとにクラスタへの再参加を試みます。
- **シャーシアプリケーション通信の障害**：Firepower Threat Defense アプリケーションはシャーシアプリケーションの状態が回復したことを検出すると、自動的にクラスタへの再参加を試みます。
- **内部エラー**：内部エラーには、アプリケーション同期のタイムアウト、一貫性のないアプリケーションステータスなどがあります。問題の解決後、クラスタリングを再度有効にして手動でクラスタに再参加する必要があります。

## データ パス接続状態の複製

どの接続にも、1つのオーナーおよび少なくとも1つのバックアップオーナーがクラスタ内にあります。バックアップオーナーは、障害が発生しても接続を引き継ぎません。代わりに、TCP/UDP の状態情報を保存します。これは、障害発生時に接続が新しいオーナーにシームレスに移管されるようにするためです。バックアップオーナーは通常ディレクタでもあります。

トラフィックの中には、TCP または UDP レイヤよりも上の状態情報を必要とするものがあります。この種類のトラフィックに対するクラスタリングのサポートの可否については、次の表を参照してください。

表 1: クラスタ全体で複製される機能

トラフィック	状態のサポート	注記 (Notes)
アップタイム	○	システムアップタイムをトラッキングします。
ARP テーブル	○	
MAC アドレス テーブル	○	

トラフィック	状態のサポート	注記 (Notes)
ユーザ ID	○	—
IPv6 ネイバー データベース	○	—
ダイナミック ルーティング	○	—
SNMP エンジン ID	なし	—
中央集中型 VPN (サイト間)	なし	VPN セッションは、マスターユニットで障害が発生すると切断されます。

## コンフィギュレーションの複製

クラスタ内のすべてのユニットは、単一の設定を共有します。設定変更を加えることができるのはマスターユニット上だけであり、変更は自動的にクラスタ内の他のすべてのユニットに同期されます。

## 管理インターフェイス

管理タイプのインターフェイスをクラスタに割り当てる必要があります。このインターフェイスはスパンドインターフェイスではなく、特別な個別インターフェイスです。管理インターフェイスによって各ユニットに直接接続できます。この管理論理インターフェイスはデバイスの他のインターフェイスから切り離されています。これは、**Firepower Management Center** にデバイスを設定し、登録するために使用されます。管理インターフェイスは、独自のローカル認証、IP アドレス、およびスタティックルーティングを使用します。クラスタの各メンバーは、管理ネットワーク上で、それぞれに異なる IP アドレスを使用します。これらの IP アドレスは、ブートストラップ構成の一部としてユーザが設定します。

管理インターフェイスは、管理論理インターフェイスと診断論理インターフェイスの間で共有されます。診断論理インターフェイスはオプションであり、ブートストラップ構成の一部としては設定されません。診断インターフェイスは、他のデータインターフェイスと併せて設定できます。診断インターフェイスを設定する場合、メインクラスタ IP アドレスを、そのクラスタの固定アドレス（常に現在のマスターユニットに属するアドレス）として設定します。アドレス範囲も設定して、現在のマスターを含む各ユニットがその範囲内のローカルアドレスを使用できるようにします。このメインクラスタ IP アドレスによって、診断アクセスのアドレスが一本化されます。マスターユニットが変更されると、メインクラスタ IP アドレスは新しいマスターユニットに移動するので、クラスタへのアクセスをシームレスに続行できます。TFTP や syslog などの発信管理トラフィックの場合、マスターユニットを含む各ユニットは、ローカル IP アドレスを使用してサーバに接続します。

## クラスタが接続を管理する方法

接続をクラスタの複数のメンバーにロードバランスできます。接続のロールにより、通常動作時とハイ アベイラビリティ状況時の接続の処理方法が決まります。

### 接続ロール

各接続に定義されている次のロールを参照してください。

- **オーナー**：通常、最初に接続を受信するユニット。オーナーは、TCP 状態を保持し、パケットを処理します。1つの接続に対してオーナーは1つだけです。最初のオーナーに障害が発生すると、新しいユニットがその接続からパケットを受信したときに、ディレクタがそれらのユニットの中から新しいオーナーを選択します。
- **バックアップ オーナー**：オーナーから受信した TCP/UDP 状態情報を保存して、障害発生時に接続を新しいオーナーにシームレスに転送できるようにするユニット。バックアップ オーナーは、障害発生時に接続を引き継ぎません。オーナーが使用不可能になった場合は、その接続からパケットを受け取る最初のユニット（ロードバランシングに基づく）がバックアップ オーナーに問い合わせ、関連する状態情報を取得します。これでそのユニットが新しいオーナーになることができます。

ディレクタ（下記参照）がオーナーと同じユニットでないかぎり、ディレクタもバックアップ オーナーです。オーナーが自分をディレクタとして選択した場合は、別のバックアップ オーナーが選択されます。

- **ディレクタ**：フォワーダからのオーナーバックアップ要求を処理するユニット。オーナーが新しい接続を受信すると、オーナーは、送信元/宛先 IP アドレスおよびポートのハッシュに基づいてディレクタを選択し、新しい接続を登録するためにメッセージをそのディレクタに送信します。パケットがオーナー以外のユニットに到着した場合は、そのユニットはどのユニットがオーナーかをディレクタに問い合わせます。これで、パケットを転送できるようになります。1つの接続に対してディレクタは1つだけです。ディレクタに障害が発生すると、オーナーは新しいディレクタを選択します。

ディレクタがオーナーと同じユニットでないかぎり、ディレクタもバックアップ オーナーです（上記参照）。オーナーが自分をディレクタとして選択した場合は、別のバックアップ オーナーが選択されます。

- **フォワーダ**：パケットをオーナーに転送するユニット。フォワーダが接続のパケットを受信したときに、その接続のオーナーが自分ではない場合は、フォワーダはディレクタにオーナーを問い合わせしてから、そのオーナーへのフローを確立します。これは、この接続に関してフォワーダが受信するその他のパケット用です。ディレクタは、フォワーダにもなることができます。フォワーダが SYN-ACK パケットを受信した場合、フォワーダはパケットの SYN クッキーからオーナーを直接取得できるので、ディレクタに問い合わせる必要がないことに注意してください。（TCP シーケンスのランダム化を無効にした場合は、SYN Cookie は使用されないため、ディレクタへの問い合わせが必要です）。存続期間が短いフロー（たとえば DNS や ICMP）の場合は、フォワーダは問い合わせの代わりにパケットを即座にディレクタに送信し、ディレクタがそのパケットをオーナーに送信します。1つの接続に対して、複数のフォワーダが存在できます。最も効率的なスルーポイント



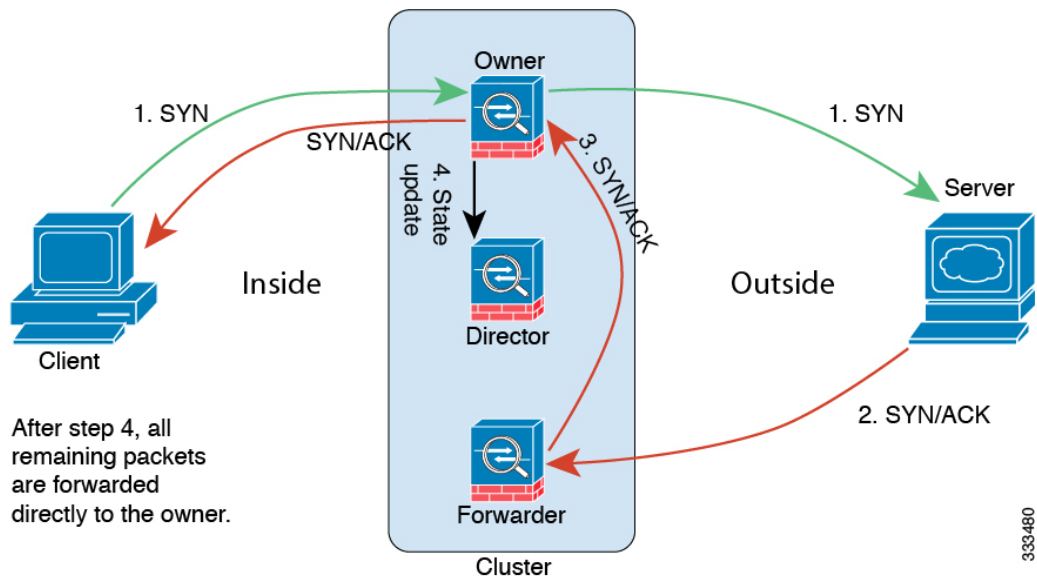
を実現できるのは、フォワーダが1つもなく、接続のすべてのパケットをオーナーが受信するという、優れたロードバランシング方法が使用されている場合です。

## 新しい接続の所有権

新しい接続がロードバランシング経由でクラスタのメンバに送信される場合は、そのユニットがその接続の両方向のオーナーとなります。接続のパケットが別のユニットに到着した場合は、そのパケットはクラスタ制御リンクを介してオーナーユニットに転送されます。逆方向のフローが別のユニットに到着した場合は、元のユニットにリダイレクトされます。

## サンプル データ フロー

次の例は、新しい接続の確立を示します。



1. SYN パケットがクライアントから発信され、Firepower Threat Defense デバイスの1つ（ロードバランシング方法に基づく）に配信されます。これがオーナーとなります。オーナーはフローを作成し、オーナー情報をエンコードして SYN Cookie を生成し、パケットをサーバに転送します。
2. SYN-ACK パケットがサーバから発信され、別の Firepower Threat Defense デバイス（ロードバランシング方法に基づく）に配信されます。この Firepower Threat Defense デバイスはフォワーダです。
3. フォワーダはこの接続を所有してはいないので、オーナー情報を SYN Cookie からデコードし、オーナーへの転送フローを作成し、SYN-ACK をオーナーに転送します。
4. オーナーはディレクタに状態アップデートを送信し、SYN-ACK をクライアントに転送します。

5. ディレクタは状態アップデートをオーナーから受信し、オーナーへのフローを作成し、オーナーと同様に TCP 状態情報を記録します。ディレクタは、この接続のバックアップオーナーとしての役割を持ちます。
6. これ以降、フォワーダに配信されたパケットはすべて、オーナーに転送されます。
7. パケットがその他のユニットに配信された場合は、そのユニットはディレクタに問い合わせさせてオーナーを特定し、フローを確立します。
8. フローの状態が変化した場合は、状態アップデートがオーナーからディレクタに送信されます。

## Firepower Threat Defense の機能とクラスタリング

Firepower Threat Defense の一部の機能はクラスタリングではサポートされず、一部はマスターユニットのみでサポートされます。その他の機能については適切な使用に関する警告があります。

### クラスタリングでサポートされない機能

これらの機能は、クラスタリングが有効なときは設定できず、コマンドは拒否されます。

- サイト間 VPN
- DHCP クライアント、サーバ、およびプロキシ。DHCP リレーはサポート対象です。
- 高可用性

### クラスタリングの中央集中型機能

次の機能は、マスターユニット上だけでサポートされます。クラスタの場合もスケーリングされません。



(注) 中央集中型機能のトラフィックは、クラスタ制御リンク経由でメンバユニットからマスターユニットに転送されます。

再分散機能を使用する場合は、中央集中型機能のトラフィックが中央集中型機能として分類される前に再分散が行われて、マスター以外のユニットに転送されることがあります。この場合は、トラフィックがマスターユニットに送り返されます。

中央集中型機能については、マスターユニットで障害が発生するとすべての接続がドロップされるので、新しいマスターユニット上で接続を再確立する必要があります。

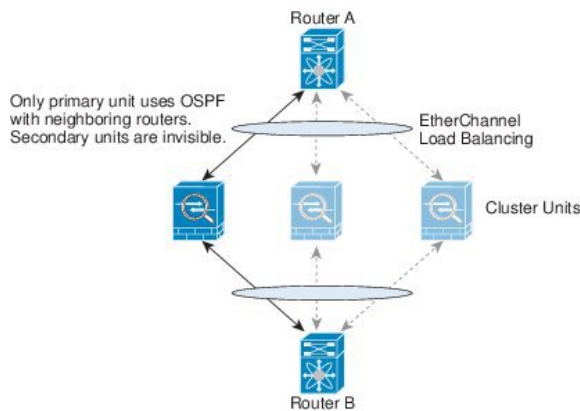
- 次のアプリケーション インспекション：
  - DCERPC
  - NetBIOS

- RSH
  - SUNRPC
  - TFTP
  - XDMCP
- ダイナミック ルーティング
  - スタティック ルート モニタリング

## ダイナミック ルーティングとクラスタリング

ルーティング プロセスはマスター ユニット上だけで実行されます。ルートはマスター ユニットの介して学習され、セカンダリに複製されます。ルーティング パケットがスレーブに到着した場合は、マスター ユニットにリダイレクトされます。

図 1: ダイナミック ルーティング



スレーブ メンバがマスター ユニットからルートを学習した後は、各ユニットが個別に転送に関する判断を行います。

OSPF LSA データベースは、マスター ユニットからスレーブ ユニットに同期されません。マスター ユニットのスイッチオーバーが発生した場合は、隣接ルータが再起動を検出します。スイッチオーバーは透過的ではありません。OSPF プロセスが IP アドレスの 1 つをルータ ID として選択します。必須ではありませんが、スタティック ルータ ID を割り当てることができます。これで、同じルータ ID がクラスタ全体で使用されるようになります。割り込みを解決するには、OSPF ノンストップ フォワーディング機能を参照してください。

## NAT とクラスタリング

NAT は、クラスタの全体的なスループットに影響を与えることがあります。インバウンドおよびアウトバウンドの NAT パケットが、クラスタ内のそれぞれ別の Firepower Threat Defense デバイスに送信されることがあります。ロード バランシング アルゴリズムは IP アドレスとポートに依存していますが、NAT が使用される場合は、インバウンドとアウトバウンドとで、パケットの IP アドレスやポートが異なるからです。接続のオーナーではない Firepower Threat

Defense デバイス に到着したパケットは、クラスタ制御リンクを介してオーナーに転送されるので、大量のトラフィックがクラスタ制御リンク上で発生します。

それでもクラスタリングで NAT を使用する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- **ダイナミック PAT 用 NAT プールアドレス分散**：マスターユニットは、アドレスをクラスタ全体に均等に分配します。接続を受信したメンバーにアドレスが1つも残っていない場合、他のメンバーには使用可能なアドレスがまだ残っていても、接続はドロップされません。最低でも、クラスタ内のユニットと同数の NAT アドレスが含まれていることを確認してください。各ユニットが確実に1つのアドレスを受け取るようにするためです。
- **ラウンドロビンなし**：PAT プールのラウンドロビンは、クラスタリングではサポートされません。
- **マスターユニットによって管理されるダイナミック NAT xlate**：マスターユニットが xlate テーブルを維持し、スレーブユニットに複製します。ダイナミック NAT を必要とする接続をスレーブユニットが受信したときに、その xlate がテーブル内にない場合は、スレーブはマスターユニットに xlate を要求します。スレーブユニットが接続を所有します。
- 次のインспекション用のスタティック PAT はありません。
  - FTP
  - RSH
  - SQLNET
  - TFTP
  - XDMCP
  - SIP

## SIP インспекションとクラスタリング

制御フローは、任意のユニットで作成できますが（ロードバランシングのため）、その子データフローは同じユニットに存在する必要があります。

## syslog とクラスタリング

- クラスタの各ユニットは自身の syslog メッセージを生成します。各ユニットの syslog メッセージヘッダーフィールドで使用されるデバイス ID を同一にするか、別にするかを設定できます。たとえば、ホスト名設定はクラスタ内のすべてのユニットに複製されて共有されます。ホスト名をデバイス ID として使用するようにロギングを設定した場合は、どのユニットで生成された syslog メッセージも1つのユニットからのように見えます。クラスタブートストラップ設定で割り当てられたローカルユニット名をデバイス ID として使用するようにロギングを設定した場合は、syslog メッセージはそれぞれ別のユニットからのように見えます。

## SNMP とクラスタリング

SNMP エージェントは、個々の Firepower Threat Defense デバイスを、その診断インターフェイスのローカル IP アドレスによってポーリングします。クラスタの統合データをポーリングすることはできません。

SNMP ポーリングには、メインクラスタ IP アドレスではなく、常にローカルアドレスを使用してください。SNMP エージェントがメインクラスタ IP アドレスをポーリングする場合は、新しいマスターが選定されたときに、新しいマスターユニットのポーリングに失敗します。

## FTP とクラスタリング

- FTPD チャンネルとコントロールチャンネルのフローがそれぞれ別のクラスタメンバーによって所有されている場合は、D チャンネルのオーナーは定期的にアイドルタイムアウトアップデートをコントロールチャンネルのオーナーに送信し、アイドルタイムアウト値を更新します。ただし、コントロールフローのオーナーがリロードされて、コントロールフローが再ホスティングされた場合は、親子フロー関係は維持されなくなります。したがって、コントロールフローのアイドルタイムアウトは更新されません。

## Cisco TrustSec とクラスタリング

マスターユニットだけがセキュリティグループタグ (SGT) 情報を学習します。マスターユニットからこの SGT がスレーブに渡されるので、スレーブは、セキュリティポリシーに基づいて SGT の一致決定を下せます。

# Firepower 9300 シャーシでのクラスタ化前提条件

### スイッチ前提条件

- Firepower 4100/9300 シャーシでクラスタリングを設定する前に、必ずスイッチの設定を完了し、シャーシからのすべての EtherChannel をスイッチに正常に接続してください。
- サポートされているスイッチのリストについては、「[Cisco FXOS Compatibility](#)」を参照してください。

# Firepower 9300 シャーシ上のクラスタリングのガイドライン

### ハイアベイラビリティ

ハイアベイラビリティは、クラスタリングではサポートされません。

### その他のガイドライン

- ユニットの既存のクラスタに追加したときや、ユニットをリロードしたときは、一時的に、限定的なパケット/接続ドロップが発生します。これは予定どおりの動作です。場合によっては、ドロップされたパケットが原因で接続がハングすることがあります。たとえば、FTP 接続の FIN/ACK パケットがドロップされると、FTP クライアントがハングします。この場合は、FTP 接続を再確立する必要があります。
- スパンドインターフェイスに接続された Windows 2003 サーバを使用している場合、syslog サーバポートがダウンし、サーバが ICMP エラーメッセージを制限しないと、大量の ICMP メッセージがクラスタに返送されます。このようなメッセージにより、クラスタの一部のユニットで CPU 使用率が高くなり、パフォーマンスに影響する可能性があります。ICMP エラーメッセージを調節することを推奨します。

## Firepower 9300 シャーシでのクラスタリングのデフォルト

- クラスタのヘルスチェック機能は、デフォルトで有効になり、ホールド時間は3秒です。インターフェイスヘルスモニタリングは、デフォルトで、すべてのインターフェイス上で有効です。

## Firepower 4100/9300 シャーシのクラスタリング設定

クラスタは、Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザから簡単に展開できます。すべての初期設定が各ユニット用に自動生成されます。その後、ユニットを Management Center に追加し、1つのクラスタにグループ化できます。

## Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザからのクラスタの展開

クラスタリングの設定手順についての詳細は、Firepower 4100/9300 シャーシのドキュメンテーションを参照してください。

論理デバイスを Firepower 9300 シャーシに追加するときは、スタンドアロンユニットまたはクラスタのどちらを展開するかを選択できます。

## Management Center へのクラスタの追加

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	該当なし	Firepower 4100 および 9300 上の Firepower Threat Defense	任意 (Any)	Access Admin Administrator Network Admin

論理デバイスを Management Center に追加し、これらをクラスタにグループ化します。

### 始める前に

- どのユニットがマスター ユニットであるかを確認するには、Firepower Chassis Manager の [論理デバイス (Logical Devices)] 画面を参照します。
- すべてのクラスタ ユニットは、Management Center に追加する前に、FXOS 上の正常に形成されたクラスタ内に存在している必要があります。

### 手順

**ステップ 1** Management Center で、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、[追加 (Add)] > [デバイスの追加 (Add Device)] の順に選択して、クラスタを展開したときに割り当てた管理 IP アドレスを使用して、各ユニットを別個の管理対象デバイスとして追加します。

(注) Management Center のハイアベイラビリティを使用する場合、スタンバイ Management Center にも各ユニットが正常に登録されていることを確認してから、アクティブな Management Center 上での作業を継続し、クラスタを形成します。各ユニットの登録ステータスを確認するために、スタンバイ Management Center にログインします。

**ステップ 2** [追加 (Add)] > [クラスタの追加 (Add Cluster)] の順に選択し、ユニットをクラスタにグループ化します。

a) ドロップダウンリストから [マスター (Master)] デバイスを選択します。

対象となる他のすべてのメンバーは、[スレーブデバイス (Slave Devices)] ボックスに追加されます。

b) クラスタの [名前 (Name)] を指定します。

c) [OK] をクリックします。

クラスタ オブジェクトが [デバイス (Devices)] 画面に追加され、メンバー ユニットがその下に表示されます。現在のマスター ユニットは、ユニット名の後の「(マスター) (master)」で表示されます。

(注) 後から FXOS シャーシのクラスタにさらにユニットを追加する場合は、Management Center に各ユニットを追加し、その後すぐにそれらをクラスタのスレーブノードとして追加する必要があります。

**ステップ 3** デバイス固有の設定を行うには、クラスタの編集アイコン (✎) をクリックします。クラスタを全体として設定することはできませんが、クラスタのメンバーユニットは設定できません。

**ステップ 4** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] タブから、[全般 (General)]、[ライセンス (License)]、[システム (System)]、および [ヘルス (Health)] の設定を確認できます。このタブは、ライセンス付与の設定をする際に役立ちます。[デバイス (Devices)] タブでは、マスターユニットのみの管理 IP アドレスを変更できます。

**ステップ 5** (任意) 診断インターフェイスを設定するには、次の手順を実行します。

診断インターフェイスは、個別インターフェイスモードで実行できる唯一のインターフェイスです。syslog メッセージや SNMP などに、このインターフェイスを使用できます。

- 診断インターフェイスを編集するには、[インターフェイス (Interfaces)] タブをクリックします。
- [IPv4] タブで、[仮想 IP アドレス (Virtual IP Address)] とマスクを入力します。この IP アドレスは、そのクラスタの固定アドレスで、常に現在のマスターユニットに属します。
- [開始アドレス (Start Address)] と [終了アドレス (End Address)] に、IP アドレスプールの開始アドレスと終了アドレスを入力します。この範囲に含まれるアドレスの 1 つが、インターフェイスの各クラスタユニットに指定されます。

最低でも、クラスタ内のユニット数と同じ数のアドレスが含まれるようにしてください。仮想 IP アドレスはこのプールには含まれませんが、同一ネットワーク上に存在している必要があります。各ユニットに割り当てられる正確なローカルアドレスを事前に決定することはできません。

- [マスク (Mask)] に、クラスタ IP プールのサブネットマスクを入力します。
- [IPv6] タブで、[基本 (Basic)] > [クラスタ IPv6 プール (Cluster IPv6 Pool)] の下の、[アドレス (Address)] に `ipv6-address/prefix-length` を指定し、[カウント (Count)] にプール内のアドレス数を指定します。
- 通常どおり、他のインターフェイス設定を行います。

**ステップ 6** 必要に応じて他のデバイスレベルの設定も行います。

**ステップ 7** [保存 (Save)]、[展開 (Deploy)] の順にクリックします。



## クラスタ メンバーの追加

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	該当なし	Firepower 4100 および 9300 上の Firepower Threat Defense	任意 (Any)	Access Admin Administrator Network Admin

Firepower 9300 デバイスにモジュールを追加する場合などには、既存のクラスタに新しいクラスタ メンバーを追加できます。

### 始める前に

FXOS シャーシのクラスタにさらにユニットを追加するときには、Management Center に各ユニットを追加し、その後すぐにそれらをクラスタのスレーブノードとして追加する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** Management Center で、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、[追加 (Add)] > [デバイスの追加 (Add Device)] の順に選択して、新しい論理デバイスを追加します。

**ステップ 2** [追加 (Add)] > [クラスタの追加 (Add Cluster)] を選択します。 >

**ステップ 3** ドロップダウン リストから現在の [マスター (Master)] デバイスを選択します。

クラスタにすでに含まれているマスターデバイスを選択した場合、既存のクラスタの名前が自動入力され、[スレーブデバイス (Slave Devices)] ボックスに選択可能なすべてのスレーブ デバイスが表示されます。これには、Management Center に追加したばかりの新しいユニットが含まれます。

**ステップ 4** [追加 (Add)] をクリックし、次に [導入 (Deploy)] をクリックします。

クラスタが更新され、新しいメンバーが追加されます。

## スレーブメンバーの削除

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	該当なし	Firepower 4100 および 9300 上の Firepower Threat Defense	任意 (Any)	Access Admin Administrator Network Admin

クラスタメンバーを削除する必要がある場合（たとえば、Firepower 9300 でモジュールを削除する場合は、Management Center からメンバーを削除する必要があります。そのメンバーが引き続きクラスタの正常な構成要素であると Firepower Chassis Manager に示されている場合は、メンバーを削除しないでください。Management Center から削除しても、そのメンバーは引き続きクラスタの有効な構成要素であるため、これがマスターユニットになって Management Center でそれを管理できなくなる場合に問題が発生する可能性があります。

### 手順

**ステップ 1** Management Center で、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択し、スレーブユニットの横にあるごみ箱をクリックします。

**ステップ 2** ユニットの削除を確認します。

ユニットがクラスタから削除され、Management Center デバイスリストからも削除されます。

## クラスタへの再参加

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	該当なし	Firepower 4100 および 9300 上の Firepower Threat Defense	任意 (Any)	Access Admin Administrator Network Admin

障害が発生したインターフェイスなど、ユニットがクラスタから削除された場合、ユニット CLI にアクセスして、クラスタに手動で再参加させる必要があります。クラスタへの再参加を試行する前に、障害が解決されていることを確認します。クラスタからユニットが削除される理由の詳細については、[クラスタへの再参加 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

## 手順

**ステップ 1** クラスタに再参加させる必要のあるユニットの CLI に、コンソールポートからアクセスするか、管理インターフェイスへの SSH を使用してアクセスします。ユーザ名 **admin** と、初期セットアップ時に設定したパスワードを使用してログインします。

**ステップ 2** クラスタリングを有効にします。

```
cluster enable
```

## クラスタリングの履歴

機能	バージョン (Version)	詳細 (Details)
Firepower 9300 用シャーシ内クラスタリング	6.0.1	<p>FirePOWER 9300 シャーシ内では、最大3つのセキュリティモジュールをクラスタ化できます。シャーシ内のすべてのモジュールは、クラスタに属している必要があります。</p> <p>新しい/変更された画面：</p> <p>[デバイス (Devices) ]&gt;[デバイス管理 (Device Management) ]&gt;[追加 (Add) ]&gt;[クラスタの追加 (Add Cluster) ]</p> <p>[デバイス (Devices) ]&gt;[デバイス管理 (Device Management) ]&gt;[クラスタ (Cluster) ]</p> <p>サポートされているプラットフォーム：Firepower 9300 の Firepower Threat Defense</p>

